

[異常時通報連絡の公表文 (様式 1 - 1)]

伊方 1号機非常用ディーゼル発電機燃料油貯油槽油面計の異常について

23. 3. 28

原子力安全対策推進監

(内線 2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象		有 ・ 無 [評価レベル -]
県の公表区分		A ・ B ・ C
外部への放射能の放出・漏えい		有 ・ 無 [漏えい量 -]
異常の概要	発生日時	23年3月26日11時00分
	発生場所	1号・2号・3号・共用設備
		管理区域内 ・ 管理区域外
種類	・ 設備の故障、異常 ・ 地震、人身事故、その他	

[異常の内容]

3月26日(土)11時12分、四国電力(株)から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 1 通常運転中の伊方 1号機において、3月26日(土)11時00分頃、非常用ディーゼル発電機 1 A の燃料油貯油槽の油面計が正常な値を指示していないことを確認した。
- 2 なお、燃料油貯油槽の油量は、検尺棒で確認し、必要な油量を確認した。
- 3 今後詳細を調査する。
- 4 本事象によるプラント運転及び環境への放射能の影響はない。

[その後の状況等]

3月26日(土)15時30分、四国電力(株)から、その後の状況等について、次のとおり連絡がありました。

- 1 調査の結果、貯油槽内部に設置された油面計検出部の不具合であることを確認した。
- 2 燃料油貯油槽の油量については、当該油面計が使用できない状態であっても検尺棒にて確認可能であること、また、油面計の取り替えにあたっては、燃料油貯油槽内の燃料油の抜き取りが必要となり、非常用ディーゼル発電機 2 台のうち、1 台を待機除外としなければならないことから、次回定検にて取り替えることとする。
- 3 なお、発電機の機能に異常はない。
- 4 今後、詳細調査をする。
- 5 本事象によるプラント運転及び環境への放射能の影響はない。

県としては、原子力センターの職員を伊方発電所に派遣し、その後の状況等を確認しました。

(伊方発電所及び周辺の状況)

[事象発生時の状況]

原子炉の運転状況	1号機	運転中(出力102%)	・ 停止中
	2号機	運転中(出力102%)	・ 停止中
	3号機	運転中(出力103%)	・ 停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値	・ 異常値
周辺環境放射線の状況		通常値	・ 異常値

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（経済産業省原子力安全・保安院等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 (放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等) 社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 (大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等) その他特に重要と認められる事態
B	管理区域内の設備の異常 発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき その他重要と認められる事態
C	区分A, B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

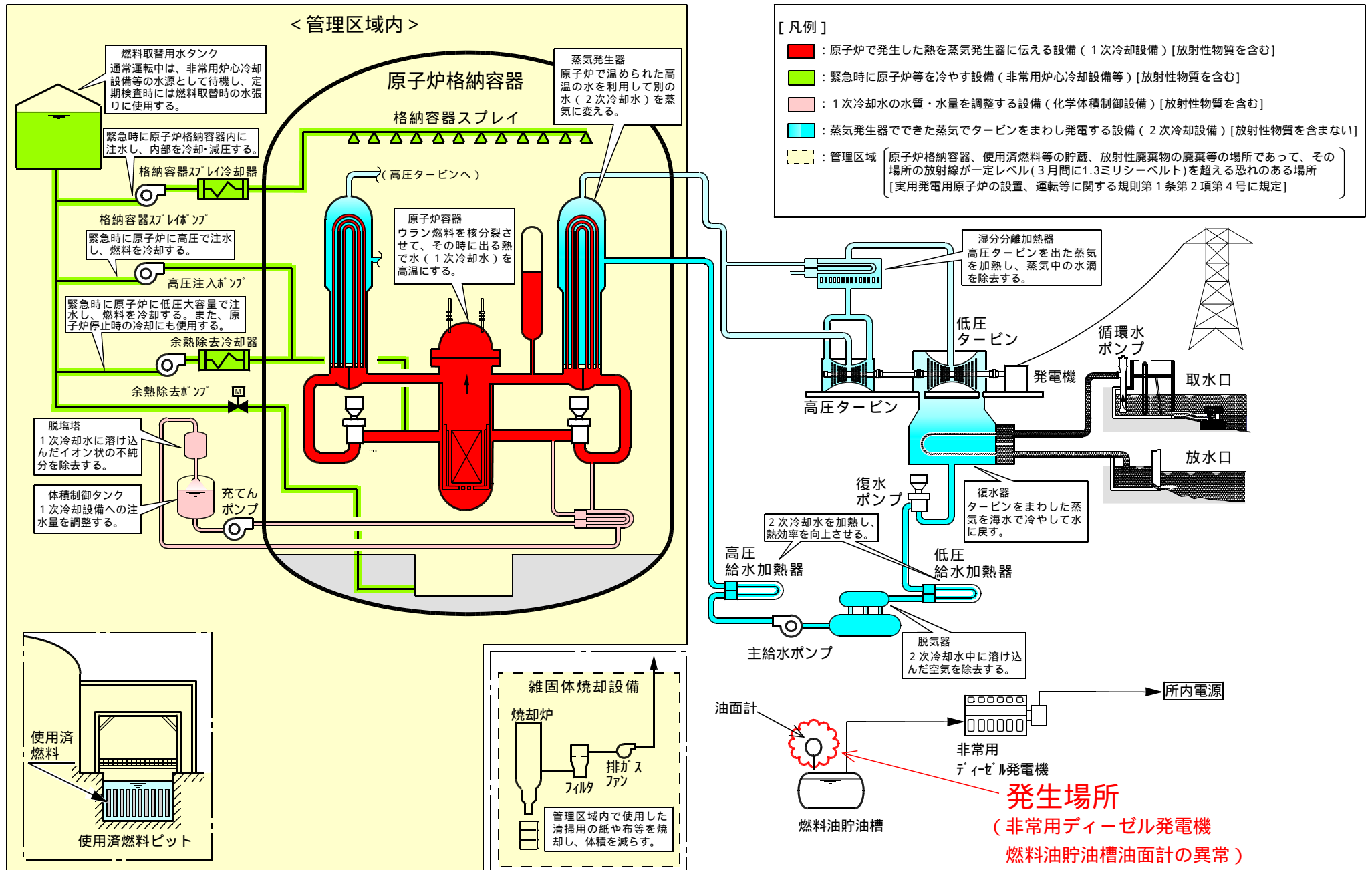
伊方発電所情報
(お知らせ)

発信年月日	平成23年3月26日(土) 11時12分
発信者	伊方発電所 伊藤
当該機	号機 (定格出力)
	発生時 状況
発生状況 概要	1号機(566MW) 2号機(566MW)・3号機(890MW)
	1. 出力579MWにて(通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 第 回 定期検査中
発生状況 概要	(設備トラブル) 人身事故・地震・その他
	<p>1. 発生日時: 3月26日11時00分</p> <p>2. 場所: 1号機屋外</p> <p>3. 状況: D/G-1A 燃料油貯油槽油位</p> <p>伊方発電所1号機は通常運転中のところ、 3月26日11時00分頃、非常用ディーゼル発電機 1Aの燃料油貯油槽の油面計が正常な値を指 していない事を確認しました。</p> <p>詳細は調査中です。</p> <p>なお本事象によるフロントの運転への影響および 環境への放射能の影響ありません。</p> <p>なお、燃料油貯油槽の油量は検尺棒で確認し、 必要な油量を確認しました。</p>
運転状況	1号機 (通常運転中)・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中 2号機 (通常運転中)・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中 3号機 (通常運転中)・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中
備考	

伊方発電所情報 (お知らせ、第2報)

発信年月日	平成23年 3月26日 (土) 15時30分	
発信者	伊方発電所 伊藤	
当該機	号機 (定格出力)	1号機(566MW)・2号機(566MW)・3号機(890MW)
	発生時 状況	1. 出力579MWにて(通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 第 回 定期検査中
発生状況 概要		<p>設備トラブル ・ 人身事故 ・ 地震 ・ その他</p> <p>1. 発生日時： 3月26日11時00分</p> <p>2. 場 所： 1号機 屋外</p> <p>3. 状 況： D/G-1A 燃料油貯油槽油位</p> <p>伊方発電所1号機は、通常運転中のところ、3月26日11時00分頃非常用ディーゼル発電機1Aの燃料油貯油槽の油面計が正常な値を指示していない事を確認しました。 詳細は調査中です。 なお、燃料油貯油槽の油量は、検尺棒で確認し、必要な油量を確認しました。 [第1報にてお知らせ済み]</p> <p>調査の結果、貯油槽内部に設置された油面計検出部の不具合であることを確認しました。 燃料油貯油槽の油量については、当該油面計が使用できない状態であっても検尺棒にて確認可能であること、また、油面計の取り替えにあたっては、燃料油貯油槽内の燃料油の抜き取りが必要となり、非常用ディーゼル発電機2台のうち、1台を待機除外としなければならないことから、次回定検にて取り替えることとします。 なお、発電機の機能に異常はありません。 今後、詳細を調査します。 本事象によるプラントの運転への影響および環境への放射能の影響はありません。</p> <p>検尺棒：貯油槽に挿入することで、油量を計測する、目盛り付きの棒</p>
	運転状況	<p>1号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p> <p>2号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p> <p>3号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p>
備 考		

伊方発電所 基本系統図







検尺風景

用語の解説

検尺棒

貯油槽に挿入し油量を計測する目盛付きの棒

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成23年3月26日(土)

(単位:ナノグレイ/時)

測定局	時刻	測定値(シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		10:40	10:50	11:00	11:10	11:20	降雨時	降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション(九町越)	1.7	1.7	1.8	1.8	1.9	4.6	1.9
	九町モニタリングポスト	2.4	2.4	2.4	2.6	2.5	4.8	2.5
	湊浦モニタリングポスト	1.7	1.6	1.7	1.7	1.7	3.7	1.6
	伊方越 モニタリングポスト	2.0	1.9	2.0	1.9	1.9	4.6	2.2
	川永田 モニタリングポスト	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	5.1	2.7
	豊之浦 モニタリングポスト	1.4	1.2	1.2	1.4	1.4	4.3	1.4
	加周モニタリングポスト	2.5	2.5	2.5	2.6	2.5	5.4	3.0
	大成モニタリングポスト	2.2	2.2	2.1	2.2	2.2	3.6	2.2
四国電力(株)	モニタリングステーション	1.4	1.5	1.6	1.5	1.5	4.1	1.7
	モニタリングポストNo.1	1.4	1.4	1.6	1.5	1.5	4.4	1.6
	モニタリングポストNo.2	1.4	1.4	1.6	1.4	1.4	4.5	1.6
	モニタリングポストNo.3	1.3	1.3	1.5	1.3	1.4	4.6	1.5
	モニタリングポストNo.4	1.4	1.5	1.6	1.4	1.5	4.4	1.6

降雨の状況：有・無
伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

1 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間(平成18、19年度)の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

2 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。

例えば、線量率約20ナノグレイ/時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

